

市長×理事長対談

海南市市長

神出 政巳 ×

海南青年会議所理事長

小浦 高義

(小浦理事長)

お忙しい中、時間をお取り頂き、有難うございます。

我々海南J.Cは「明るい豊かな社会を築き上げよう」をモットーに、地域の発展を目指して、日々活動しております。

本日は、私達、海南青年会議所総務広報委員会活動の一環として、神出市長様と、今後のまちづくりについて、また私達、J.Cが御協力できることなどについて、対談させて頂きたいと思っておりますので、よろしくお願致します。

まず、神出市長様が考える、今後のまちづくりについて、話をお伺いできればと思います。



(神出市長)

まちづくりにつきましても、8年前の新市発足の際に指針となる総合計画において、「元氣ふれあい安心のまち海南」を将来

像として掲げており、これを実現するため、「安心安全のまちづくり」、「元氣ふれあいのまちづくり」を、今後の市政運営にあたっての公約として、さらに魅力あるまちづくりを進めてまいりたいと思っております。まず、「安心安全のまちづくり」という点においては、喫緊の課題でもあります南海トラフの巨大地震などに対する防災・減災対策でありまして、避難場所、避難路の整備や橋梁の耐震化などをはじめ、建築後約48年が経過し、老朽化が進む市庁舎にあっては、地震、津波発生時の復旧・復興拠点としての役割を果たせるよう、市庁舎の安全性・機能の確保を基本とし、市議会や市民の皆様の御意見等をお聞きしながら、取

り組みを進めているところでございます。
また、安心して子育てができ、住み続けられるまちづくりを目指し、子ども医療費助成の拡大や、幼稚園、保育所の機能強化にも取り組んでいるところでございます。

次に、「元氣ふれあいのまちづくり」では、ご要望の多い国道や県道の幹線道路網の整備をはじめ、地場産業、特に中小企業への雇用や設備投資などに対する支援策にも取り組んでおります。

また、平成23年4月に第一中学校と第二中学校を統合し、新たに海南中学校を開校しましたが、閉校した第一中学校を有効に活用して、フットサルコートや簡易宿泊所を備えたスポーツセンターの整備をはじめ、従来から要望が多い公園や図書館機能を備えた、誰もが集い、憩い、交流を深めることのできる交流施設の整備にも取り組みたいと考えております。

(小浦理事長)

安心して子育てができ、住み続けられるまちづくりを目指すとありますが、主な事

業について教えてください。

(神出市長)

まず、子育て世代の方が安心して子育てできるよう、これまでも、小学校就学前までの乳幼児を対象に、通院・入院に対する医療費を助成してまいりましたが、今年、9月からは、対象年齢を拡大し、中学校卒業までの入院に係る医療費を、所得制限を設けず、無料にしております。

又、保育サービスの充実としまして、就学前の子どもに、幼児教育と延長保育や病後



児保育などを一体的に提供できる、本市で2園目となる「西子ども園」の建設に向けて取り組んでいるところでもあります。更に、現在小学校3年生までの子どもを対象に実施している学童保育については、夏休み期間中の実施や、対象年齢の拡大にも取り組みたいと考えております。

(小浦理事長)

次に、「元氣ふれあいのまちづくりのうち、居住環境の向上を図るための住宅改修助成を始められたとお聞きしましたが。

(神出市長)

住宅の安全性、耐久性及び居住性を向上させ、安心して住み続けられる住まいづくりや、居住環境の向上を図るため、市民の皆さんが実施する住宅のリフォーム工事に対し、工事費の10%、10万円を上限として、費用の一部を補助しております。

本年8月1日から9月末まで募集し、74件の申し込みがございます。これまで、

あまり進まなかった耐震改修や高齢者の方々の住宅改修が見込まれるとともに、施工業者を市内の業者に限定させていただいておりますので、地域経済の活性化にもつながるものと期待しております。

(小浦理事長)

その他に、「元氣ふれあいのまちづくり」の事業はどのようなものがありますか。

先ほど申し上げましたが、近年の健康志向や市民のスポーツに対する関心の高まりを地域の活性化・賑わいへとつなげるため、旧第一中学校を有効に活用させていただき、(仮称)海南市西部スポーツセンターの建設に取り組んでいます。

このスポーツセンターは、フットサルコートやテニスコートの整備をはじめ、既存の建物を活用した簡易宿泊施設も整備したいと考えておりまして、立地的にも、県内外からの多くの利用者が見込まれ、地域の活

性化につながるものと期待をしております。なお、整備する簡易宿泊施設については、緊急時の津波避難ビルとしての役割も果たせるものにしていきたいと考えております。

また、本市の地域経済を支えてきました家庭用品、漆器、家具などの地場産業の更なる発展を目指し、市内の製造業者が行う機械・装置の取得に要した費用の一部を助成する「中小企業設備投資促進事業補助金」を創設しております。

プレスその他金属加工用金型、合成樹脂などの補助対象となる設備の取得費の10%、1事業あたり300万円を上限として補助しております。既に申し込みも頂いているところでございます。

(小浦理事長)

全国的な課題として、人口減少対策が挙げられると思いますが、その点について、どのように感じられておられるでしょうか。

(神出市長)

全国的に人口減少が進む中、本市の人口についても、平成17年の合併以降、約5千人減少しておりまして、年間約650人減少していることとなります。

特に、少子高齢化については、全国や和歌山県平均よりも早いスピードで進行しており、出生数については、合併時の平成17年では398人あった出生数が平成24年には330人程度まで減少しております。

この出生数が低い原因としましては、全国的な傾向でもありますが、晩婚化や未婚率の上昇、ライフスタイルの多様化、あるいは子育てや教育にかかる経済的な負担感などにより、合計特殊出生率が低下し、出生児数が減少してきているものと考えられます。

また、本市では死亡、出生といった自然動態による人口減少と、転入、転出といった社会動態による人口減少が、ともに県内他市と比べて高い状況にありまして、社会動態については、特に若い世代の転出が多く、これにより高齢化率が高くなるとともに、15歳以上64歳以下の生産年齢人口の割合が低い状況となっております。

この生産年齢人口の割合が低くなり、出生児数の低下につながってくるものであり、社会動態による人口減少、また生産年齢人口の割合が低い原因としましては、若い世代の転出ということから考えると、雇用の場の問題、地価が高い、高等教育機関がない、和歌山市に隣接しているなど、様々な理由があると考えております。

人口減少の抑制は大変難しい問題でありまして、なかなか即効策、抜本的な施策が見いだせないのが実情ではありますが、平成24年度からスタートしております総合計画後期基本計画では、喫緊の課題に対する取り組みの1つとして、次世代育成定住促進プランを設定しております。

このプランでは、住環境の整備、子育て支援、地域雇用を大きな柱とし、先ほど説明しました、「子ども医療費助成の拡大」、「住宅リフォーム助成」、「中小企業の設備投資への助成」、さらには、旧第一中学校跡地へのスポーツ施設整備といった取り組みを進めているところでございます。

今後、公園や図書館機能を備えた市民交流施設の整備や学童保育の拡充などにも取

り組んでまいりたいと考えております。

人口減少については、様々な要因が複雑に絡み合っている問題でもありますので、その対策としては、おのずと多種多様な施策が求められますが、限られた財源の中で、人口流出をとめ、流入人口を増やせるような効果的な施策を展開できればと考えているところでございます。

（小浦理事長）

人口減少対策は、非常に難しい問題だと思えますし、人口減少対策として、様々な政策が必要になるかと思えます。

私たちが海南JCでは、2011年に県内の青年会議所としては初めて婚活事業を行った事があります。最近では行政でも婚活事業に類する事をされているところもありますが、海南市としてはどのようにお考えですか。

（神出市長）

私も海南JCが、一昨年前に婚活事業を

実施され、大盛況であったとお聞きしております。最近の少子化、晩婚化、人口減少対策として、行政が出会いの場を提供する、いわゆる「婚活事業」を実施しているところもございます。先般も紀美野町では、商工会議所が中心となった実行委員会で、婚活イベントが開催されておりまして、海南市においてもこのような活動を支援できないかも検討させていただきたいと思っております。

今後、海南JCが事業を実施する場合は、開催場所の提供や事業の周知広報など、何かしら協力できることがあると思えます。人口減少対策には即効策がありません。行政と民間それぞれの立場で様々な知恵を出して協同しながら、人口減少対策に取り組んで参りたいと考えてございます。

（小浦理事長）

私たちが「会員数を増やしていく」というのはJC活動の根本でもありますので、人口減少対策はとても重要な事と捉えています。今後このような事業と協力してやっ

ていけると良いですね。

次に、防災対策についてお伺いします。先ほど神出市長がおっしゃっていたように、安全・安心な街を創っていくためには、防災対策は喫緊の課題であると思っております。そのような中で、我々も初動防災マニュアルのようなものが作れば良いと考えています。例えば災害が起こった際に、市ではどのような体制がとれるのか、そしてそれどどのような形で市民の皆さんにアナウンスされているのか、ご教示いただけませんか。

(神出市長)

災害時の市の防災配備体制は、災害の内容に応じ、対応する市役所内の関係課の職員を参集させ、体制を組んでおります。例えば、大雨や台風の場合は、気象警報の大雨警報が発令された時点で、まず防災担当の危機管理課、消防をはじめ河川や道路を管理する建設課、管理課が中心となり体制を組み、その後被害状況により順次職員体制を拡大します。また、予測できない突然

発生する地震については、震度4または5弱まででは大雨と同様の関係課で対応し、5強以上の場合は、職員全員を参集させ、対応します。これらの市の体制に関する市民の皆さんへのアナウンスについては、市ホームページに掲載している市の防災計画の要である「地域防災計画」の中で紹介していますが、今後はもっとわかりやすい形で紹介できるように検討してまいります。

(小浦理事長)

我々JCも市と連携して、協力できる点がないかと模索している状況ですが、JCも取り組める事業、施策はあるでしょうか。

(神出市長)

市では、防災対策を最重要課題として、ハード、ソフトの両面で対策を進めていますが、いずれの対策を行う中でも、防災活動に必要な若い力が不足していることが悩ましい所であります。そこで、JCの組織として、あるいは40

歳までの若い住民の一人として、防災活動にぜひ積極的に取り組んでいただきたいと思っております。

例えば、JCの組織を挙げて全會員が、それぞれの職場や事業所で災害時にどう行動するか？また、顧客をどう避難させるか？などについて計画、準備することを率先して促す活動を組織的活動の一つとしていただくことも有効ではないかと思えます。

また、地域を支える若い世代の一人として、高齢者では困難な作業のお手伝いをしていただくことも効果的であります。例えば、本市には津波避難場所の整備のために、市内各所に津波避難場所の整備をしておりますが、日頃使用していない地域の津波避難場所の草刈り等の維持管理作業に力を貸していただく。そしてその作業を通して避難場所、ひいては防災活動について平素から意識を持っていただき、いざというときに円滑な避難行動につなげてもらうことも大切なことだと思います。

このように市や地域が実施する防災活動には、特にJCの皆さんのような地域における若い力が必要であり、地域における活動

をはじめ、防災意識の高揚のために様々な側面からお力添えをいただければと思います。

(小浦理事長)

今、神出市長からいただいたお話から、私たちJCCの会員は、JCCの会員であると同時に地域に住む住民の一人として、海南市のためにできることがいくつかあることがわかりました。確かに最近では、地域における住民同士の交流が希薄になりつつある中で、私たちJCCの会員も一市民として、市や地域がそれぞれ実施する防災活動に参加し、地域のお役に立てればと思います。有事の際にお互いの力を発揮できるように相談できるようなパイプがあると良いですね。

(小浦理事長)

次に、青少年育成についてお伺いします。未来に羽ばたく次世代の子どもたちの育成ということで、海南JCCは今年の基本方針

の一つとして「強い精神力を備えた青少年の育成」を掲げていまして、毎年何らかの形で子ども達を対象にしたイベントを行っています。今年でしたら12月頭にお正月の伝統文化を体験できる様な事業を行います。

青少年育成という点で、現在の海南市の取り組みを教えてください。

(神出市長)

少子化や核家族化の進展など、社会の変化に伴う価値観の多様化、人間関係の希薄化は、青少年の健全育成に大きな影響を及ぼしております。また、これまで子どもたちの身近な遊び場であった自然環境も失われつつあり、少子化の影響のために異なった年齢が集団で遊ぶ機会も少なくなっております。

こうした状況の下においては、子どもの健全な成長には、学校・家庭・地域の連携や協力がとりわけ重要であると考えております。

そのため、海南市の青少年育成の取り組み

としては、小学生を中心に「生活体験」や「自然体験」、「文化芸術体験」などの機会を設け、年齢の異なる子どもたち同士の交流や、地域の大人たちとの交流を通じた、社会性や自主性、創造性の育成を目的とする事業を行っております。

各小学校区を単位として取り組みを行う海南市共育コミュニティ推進本部や各種団体の皆さまのご協力を得て実施する海南市青少年育成市民会議などは、海南市において青少年健全育成活動の中心となる組織であります。

(小浦理事長)

具体的にはどのような事業を実施されていますか。

(神出市長)

平成25年度には、海南市青少年育成市民会議がファミリーカヌーづくり体験を実施し、4家族の参加がありました。

ほとんどの子どもが、ノコギリやヤスリな

どの道具を使うことが初めてで、戸惑う様子も見られましたが、一つの物を作り上げる達成感を感じて頂くことができました。また17週にわたり、毎週土曜日に自分たちの手で制作を行ったことから、家族間の交流も深まった様子でありました。

また、海南市共育コミュニティ推進本部の事業で、代表的なものに通学合宿があります。公民館での生活を通して、集団行動や家庭での仕事を経験させることで、自分の力や友達と協力することで乗り切ることができたという達成感と自信を持ってもらうことをねらいとして行っております。

なおこの通学合宿は、地域の方々が地域全体で子どもを育てるという意識づくりの場にもなっております。

(小浦理事長)

カヌーづくりに通学合宿ですか。面白そうですね。私たち海南JCも青少年育成のための事業として、防災キャンプや子どもエネルギー教室、中高生リーダーと未来を語ろうなど様々な取り組みを実施していま

す。私たちJCにも協力できること、取り組みの事業や取り組みはありますか。

(神出市長)

カヌーづくり体験では、素晴らしい講師に巡り合うことができましたが、講師や指導者に恵まれず断念した事業もあります。また、海南市には他にも子ども会や親子クラブ、ボイスカウトなどの青少年健全育成組織がありますが、指導者の高齢化が進んでおり、指導者が長年培った技術や知識を次の世代へとつなぐ世代交代に苦慮している団体もあります。

このような状況にあることから、指導者の育成や講師の発掘など地域の人々が持つ力をもっと掘り起こしていきたいと考えております。このような取り組みは行政だけで解決できるものではなく、民間団体や地域社会が一体となって取り組む必要があります。次代を担う青少年の健全育成を達成するために、JCの皆さんにも青少年育成活動に協力していただきたいと考えており

ます。

(小浦理事長)

指導者の育成や講師等の人材の発掘は、大変重要なことだと思います。

我々海南JCでは青少年育成は「自分の生まれ育つたふるさとを好きになる」ものとして捉えており、青少年育成事業を行う事を目的とした専門の委員会があります。こういった委員会とも連携が取れば、より良い事業を行う事が出来るのではないかと思います。

また我々海南JCでは、先述のとおり青少年の育成のために様々な事業を実施していく中で、事業内容は自分たちで企画立案していくわけですが、事業にマッチした講師が見つかる事業も魅力的になり、参加される方も多くなります。幸い私たち海南JCには様々な職種の会員がおりますので、日頃の活動を通じて培った人と人の繋がりや人脈を活用し、事業内容に合った講師を招聘しています。

そういう意味では、市が事業の実施を検討

する際に必要な講師等の人材の情報について、お問い合わせいただければ私たちが知り得る情報を提供できると思います。

青少年の育成については、地域の人々が持つ力をいかに引き出すか、これが重要となります。私たちJICの会員も地元海南市を輝かせる存在になれるよう自らを磨き、鍛え、未来に羽ばたく次世代の子どもたちの育成、また輝く未来の実現のために貢献していきたいと思えます。

(小浦理事長)

まだまだお話させていただきたいことはたくさんありますが、そろそろ時間になりましたので、このあたりで対談を終わらせていただきます。

今日、神出市長からお話いただいた海南市の現状と今後の展望について、また防災活動や青少年育成については、私たち海南JICが掲げる基本方針と一致するところが多くあり、自分たちの信念を貫き、地域のために貢献すること、またJIC会員であると同時に一市民として市とともに力を合わせ

て活動していくことが、海南市の未来、また海南市の未来を担う次世代の子どもたちのためになることをあらためて感じる事ができました。

神出市長が22年前にJICをご卒業されてから、来年で創立45周年を迎えます。今後50年―100年と継続させて行くにあたり、海南市さんのお力添えも賜りたく考えております。本日は貴重なお時間をいただき誠にありがとうございました。

